



— 認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 —

市民フロンティア

「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します



2021 年 2 月 25 日発行 通巻 90 号



JR 住吉駅前駐輪場



シニアショートワーク事業



生きがいサポートセンター神戸東



生きがい活動ステーション



法人本部



神戸市コミュニティ相談センター



地域共生拠点・あすパーク



まちづくりスポーツ神戸

2021 年に寄せて

理事長 中村順子／事務局長 飛田敦子

2021 年がすべり出しています。皆様いかがお過ごしでしょうか。世界を総なめに行っているコロナパンデミックは収まる気配もなく、人との関係づくりをサポートしてきた多くの仲間やCS神戸にとっては悩み深い日々が続きます。私たちは何を試されているのか、ニューノーマルとはどのように振舞うことなのか、顔を合わさずともつながる新たな方法とは…。

考えの末、26 年前の阪神・淡路大震災の原点に立ち返ることではないかと確信を深めました。他者の痛みに関わり、思いをいたし、小さなことから活動するボランティアが、街のあちこちで生活や心の支えとなり復興を成し遂げることができたのです。対面ができなければ優れた ICT の力を借りればよい、わからなければ学生さんの指導を仰ごう、次々湧き出るアイデアを一つ一つ実行に移しています。

今日の状況下、食糧・介護・教育・文化・環境等生活に密着したテーマで、直面する課題解決に向け、人間として至極当然な行動をひとつずつ丁寧に実行することを、組織にも私人にも共通するニューノーマルにしたいと思います。

小さなことでも他者のために活動できる人が増え、つながることが価値となるよう、今一度、CS神戸の理念である「自立と共生」にしっかりと立ち返ります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

With コロナでも孤立を防ぐ取組みを！

～ コロナ禍でもつながり続けるための地域支援事業 ～

2020 年は新型コロナ肺炎の拡大により、人と人が出会うことが制限され、CS 神戸の事業も見通しが立たない状況になりました。しかし、「このような状況だからこそ、CS 神戸が今こそ動かなければ！」と、半年以上に渡って様々な取組みを展開してきました。(山村)

4月

①「神戸市内の居場所を対象としたコロナ対応に関する緊急アンケート」を行いました。その結果、資金不足、物資不足を挙げた居場所運営者が多かったことから、CS 神戸の賛助会費を主な原資とする基金から②「乗り切ろうコロナ助成金」として 2 万円を居場所をはじめとする 25 団体に支給し活動の足しにいただきました。また、閉所していても何らかの方法で利用者と連絡を取ろうとしている運営者が多かったことを受け、市内 5 か所の居場所の協力のもと電話での居場所③「ふれあいコール」を開催し、出かけられない高齢者の孤立を防ぐ取組みとして好評を得ました。



6月

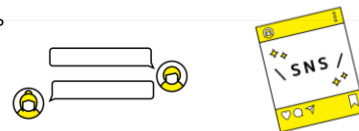
居場所利用者から居場所の再開を望む声が聞かれるものの、コロナが怖くて再開に踏み切れないとの居場所運営者の声を受け、医師の先生をお招きして④「With コロナ時代における感染症勉強会」を市内 3 か所で開催しました。正しい知識をつけ「正しく恐れる」ことに加え、コロナ禍で活動する際の工夫について参加者同士が意見交換をすることで居場所の再開に前向きになることができました。

7月

対面で会うことが難しくても孤立せずつながり続けるために、シニア向けに

⑤「はじめての LINE チャレンジ」を各居場所に出張して開催しました。

いつも居場所に集まっている顔なじみのメンバーが LINE グループを作ってビデオ通話をする事で、会えなくてもつながり続けることが可能になりました。また、コロナ禍でアルバイトがなくなってしまった学生を支援するために神戸市が実施したプログラム⑥「KOBE 学生地域貢献スクラム」のスタッフとして、大学生が共に高齢者のサポートを行いました。その他、Zoom 等のオンライン導入支援にも注力しました。



10月

居場所を試行錯誤しながら再開した運営者同士が、工夫の共有をすることが今後コロナ禍で活動を進めていく上で重

であるとの認識から、⑦「With コロナでもつながり続けるための居場所交流会」を同じく市内 3 か所で実施しました。工夫によってピンチをチャンスにし、コロナ禍が「想い」や「活動目的」を再確認する機会になったとの前向きな声が多数聞かれました。



これからも地域の皆さんの孤立を防ぐための取組みを続けていきます。
ぜひ皆様のお知恵をお貸しいただけると幸いです。よろしくお願いいたします



～ ウイズコロナ時代に求められる居場所づくりとは ～

8 月 30 日「第 5 回居場所サミット in 神戸」を実施しました。感染症対策を施しつつ、リアル（会場での参加）とオンライン参加のハイブリッド形式で実施し、あわせて約 200 名が参加しました。（CS 神戸と 5 つの中間支援団体で実行委員会形式で実施。）

第 1 部では、学生による高齢者向けスマホ教室や、川べりで合唱する歌声チャレンジなど、工夫をしながら活動している神戸市内の事例を紹介しました。

第 2 部の基調講演は、NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえ理事長の湯浅誠さんをゲストにお迎えしました。「コロナ禍で対面での交流が難しくなった。だが、お弁当配食や食材提供など、神戸と同じように形を変えながらも活動を継続している団体は多い。『つながりける』ことを優先したからこそ、様々なアイデアが生まれた。これこそが居場所の意義では」というメッセージをいただきました。（飛田）



第 5 回居場所サミット in 神戸

NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえ
湯浅誠さん

居場所データ一元化に関する提案書を提出

～ 5 年間の議論から施策提案として結実 ～

居場所サミットの実行委員会である 6 つの中間支援団体を中心となり、昨年度より「神戸地域の居場所研究会」を組成しています。居場所情報については、様々な団体がデータマップ等を発行しているものの、情報収集・掲載・メンテナンスを独自に担うには限界があり、神戸市として情報を一元化し、より市民にアクセスしやすいものできないか、と研究会で議論を続けてきました。この度、提案書としてまとめ、12 月に神戸市へ提出しました。これまでの 5 年間のサミットやその間の議論がひとつの具体的な施策提案として結実しました。（飛田）

兵庫型シニアショートワーク事業、スタート！

～ 企業とシニアをつなぎ、新しいしごとを創り出す ～

兵庫県雇用開発協会からの委託事業として、4 月に始動しました。中村理事長とスタッフ 3 名があすパークを拠点にして、主に神戸東部の企業にアプローチし、シニア向けの短時間のしごとの切り出しを行っています。企業訪問も困難なコロナ禍の中、これまでに 19 件の実績を生み出し、シニアの仕事づくりにつなげることができました。

新しい働き方の勉強会「企業×NPO 協働セミナー」の開催や起業を目指す「シニアショートワークサロン」の開催、また企業や小売店と連携して地域食育をテーマにした「食べる健康プラットフォーム事業」を開発するなど、仕事の創り出しに寄与しています。

参加者の方は、地域貢献に対する関心・意欲が高く、実際のしごとにつながるよう、企業・地域団体・シニアのネットワークづくりを目指しています。（守永）



企業×NPO 協働セミナー



ダイジェストニュース

～ 動きのあるプロジェクトをピックアップしてご紹介！ ～

【市民活動支援部】

●**ギフト・オン・ハート～カレンダープロジェクト 2021**・・・毎年恒例のカレンダープロジェクトを今年は規模を縮小して開催しました。68 の企業から余剰カレンダーを寄贈していただき、20 の高齢者住宅等にお届けしました。「今年も楽しみに待っていたよ！」との喜びの声が聞かれました。(山村)

●**生きがいごととサポートセンター神戸東(ワラビー)**・・・今年度は、人との接触が制限されている中での支援ということで、オンラインツールの活用を余儀なくされました。普及のための体験講座はコースが高く、80 人(延べ数)もの参加がありました。それにより、日々の相談や各種講座での活用が実現できました。また、各団体向けにオンライン会議の導入支援を行い、停滞しかけていた活動をサポートすることができました。引き続きどのような状況下においても活動が継続できるような支援を続けます。(上畑)



寄贈先と配送ボランティアの中川さん

【地域活動事業部】

●**JR 住吉駅前駐輪場**・・・新型コロナの影響で、障がい者団体、駅前商店、地域団体などとする駅前クリーンキャンペーンなど、人を集める定例の行事が出来ずにいます。一方で、緊急事態宣言による通勤自粛要請などに対応する定期解約返金事務など、継続的な業務を進めるための方策を次々実行していくのに追われる日々をおくっています。新型コロナ対応の一環で H P を活用したオンライン定期申請ダウンロード・メール申請受付など新しい取り組みも始めてサービス向上に努めています。(柳井)

●**生きがい活動ステーション**・・・コロナ禍の中、おかげさまで 2020 年 6 月に開設 6 周年を迎えることができましたが、今年度は対面が基本である「生き活」活動の大幅な変更を余儀なくされました。講座・サロンの延期に始まり、開催時の人数制限・予約制導入や利用者勧誘の声掛けの自粛など様々な影響がありました。中でも大きな変化は、今まで当たり前だった対面交流の一部オンライン化です。今後も地域の方々が元気を得られる場であり続けるために、「新しい日常」に即したつながりづくりや活動のサポートにチャレンジしていきたいと思います。(伊藤)

男のサロン@Zoom
(生きがい活動ステーション)

●**まちづくりスポット神戸**・・・まちスポ神戸は 2020 年 12 月で 7 周年を迎えました。現在の登録団体は 78 団体。この 1 年のコロナ禍の中、子育て支援、居場所運営、高齢者支援といった団体の活動や縮小を余儀なくされていますが、オンラインや SNS 等を通じたコミュニティ活動に力を入れているところです。ランチの予約図書受取コーナーは、開設 1 年を経て、神戸市内 18 か所の予約図書受取コーナーの中で貸出・返却総数がトップとなりました。(新庄)

●**神戸市コミュニティ相談センター**・・・手探りで過ごした初年度から少しずつ方向が見えて 2 年目の計画を立てていたところでコロナ禍へ。「顔をあわせるお付き合い」が基本の自治会の動きが沈静化し、色々と気を揉み心配しました。しかし、神戸市自治会連絡協議会にご協力いただきアンケートを実施したところ、対策をしながら出来る範囲での活動が続けられていることがわかり、ご近所を思う方々の行動に希望を感じました。私たちもコミセンとして期待されることは何かを考え、活動に取り組みます。(長井)

●**地域共生拠点・あすパーク**・・・プレオープンしてから 1 年を迎えます。CS 神戸主催事業やライフシフト 65 との協同事業を中心に展開してきましたが、こども食堂など新規に誕生した 10 余のグループやシニアショートワーク事業が加わり地域課題への対応も加速、初期の目標が達成されつつあります。企業やシニア層との定期的な勉強会は「食べる健康プラットフォーム」を生み出し、地域食育のハブ的機能も視野に入ってきました。様々な事業に関わっていただいたおよそ 3,000 人(4 月～12 月来館者合計)の皆様と共に、2 年目はコロナ禍における新たな課題にも挑戦し、テーマ毎のプラットフォーム構築に努めます。(中村)

ホームページをリニューアルしました

～ わかりやすく、安全に ～

「欲しい情報にたどり着けない」「結局、よくわからない」と言った声を聞き続けてきた法人ホームページを利用者目線で見直し、リニューアルしました！SSL にも対応し、安心して利用して頂けます。アクセスお待ちしております。【URL】<https://www.cskobe.com>

会費継続をお願いします 市民活動を共に支えてくださる賛助会員(個人・団体)の方々を募集しております。

【会費】	【振込先】
個人会費：3,000 円／年	名義：特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸
団体会費：10,000 円／年	郵便振替 00950-2-144205

2021 年度も継続
頂ける方は、**4 月 1
日以降**にご入金頂
けると幸いです！
ぜひよろしくお願
いします！

認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 (CS 神戸)

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104

TEL：078-841-0310／FAX：078-841-0312／E-MAIL：office@cskobe.com

発行人：中村順子 編集人：長井明子

2021 年 2 月 25 日発行 通巻 90 号

編集後記 今年度はコロナ色となりましたが、高齢者が多い CS 神戸が奇跡的(?)に無事に過ごせたのが一番良かったニュースです。(N)